大木町立大木中学校

大木

学校だより

令和２年度
第３号（６月）

文責　校長　庄司保浩

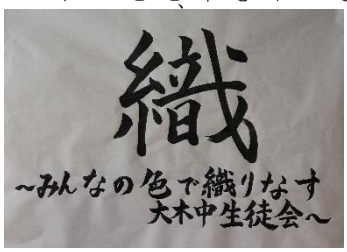
生徒会スローガン決定

今年の生徒会スローガンは

「織（おる）」
～みんなの色で織りなす
大木中学校生徒会～

糸。それは、一本では細く、弱く、味気ないものです。

しかし、たくさんの糸が織りあわされば、**丈夫な一枚の布**をつくりだすことができます。また、色とりどりの糸が織りあわされば一本では決してつくりだせない、**美しい模様**をつくりだすこともできます。しかし、そのどれもが、一本の糸も欠かすことができません。たとえ一本でも切れてしまうと、そこからだんだんと全てがほつれていってしまいます。これは**学校生活**でも同じことが言えます。



一人ではできないことも、みんなが力を合わせれば「どんなことでもやってみよう」という**強い意志で大きな困難も乗り越える**ことができます。また、様々な個性が生かされることによって、**かけがえのない楽しい思い出**が生まれます。しかし、一人でも欠けると、みんながあきらめてしまったり、達成感がなくなったり、素晴らしいものをつくりだすことができなかったりしてしまいます。

だから、みんなの色を「団結」という方法で織りなし、強く、美しく、素晴らしい大木中をつくっていきましょう。

大木中学校生徒会執行部

7月1日には生徒総会が行われ、各専門委員会の具体的な取り組みが提案されます。承認が得られれば、そこから本年度の取り組みがスタートします。全校生徒で、このスローガンに込められている想いを共有し団結して取り組んで欲しいです。

生徒の姿に成長を感じる

○あいさつ

先日、地域の方から次のような嬉しい電話がありました。「児童の安全を守る見守り隊として、地域で活動をしている者です。大木中学校の生徒さんが、毎朝元気よくあいさつをしてくれるので、朝から心地よい気持ちになり、今日も一日頑張ろうという気持ちになれます。」とのことでした。

大木町の児童生徒は、地域のおじちゃん、おばちゃんに見守られ安全に登下校ができ、地域のおじちゃん、おばちゃんは子どもたちから元気をもらい一日が始まる。大木町の児童生徒は、そんな地域の中で育っているのだなと、あらためて感じました。「いいな　大木町」

○掃除

大木中学校の生徒は、挨拶もよくしますが掃除もよくします。それも1年生より2年生、2年生より3年生と学年が上がるにしたがい、よく掃除をするようになります。今年の3年生も、その姿が見られ、だんだん大木中学校の顔（リーダー）になってきました。これからの学校生活を通して、さらに成長してくれるものと期待します。

75回目の沖縄慰霊の日

今年で終戦から75年。75年前の6月18日は大牟田市が、翌19日は福岡市が米軍機による空襲で町全体が火の海となり一面が焼け野原となりました。そして尊い人命が奪われました。

1944年10月から始まったとされる米軍機による沖縄各地への無差別爆撃。そして1945年3月には米軍が沖縄慶良間諸島に上陸。日本で唯一とされる地上戦が始まりました。6月23日には日本軍司令官の自決によって日本軍の組織的戦闘が終わりました。

この3ヶ月に及ぶ激しい地上戦で奪われた命は全体で20万人を超え、住民も巻き込まれ、沖縄県民の4人に1人、12万人が亡くなったと言われています。

本校では
・1年生…沖縄戦について知る
・2年生…なぜ集団自決をしたのか
・3年生…沖縄の今

今年も沖縄慰霊の日にあわせて平和学習を行いました。

左記の誌は、2018年の沖縄全戦没者追悼式で当時中学3年生の早良倫子さんが読んだものです。

「生きる」

私は、生きている。
　中略
七十三年前、
私の愛する島が、死の島と化したあの日。
小鳥のさえずりは、恐怖の悲鳴と変わった。
優しく響く三線は、爆撃の轟に消えた。
青く広がる大空は、鉄の雨に見えなくなった。
草の匂いは死臭で濁り、光り輝いていた海の水面は、戦艦で埋め尽くされた。
火炎放射器から吹き出す炎、幼子の泣き声、燃えつくされた民家、火薬の匂い。
着弾に揺れる大地。血に染まった海。
魑魅魍魎の如く、姿を変えた人々。
阿鼻叫喚の壮絶な戦の記憶。
みんな、生きていたのだ。
私と何も変わらない、
懸命に生きる命だったのだ。
彼らの人生を、それぞれの未来を。
疑うことなく、思い描いていたんだ。
家族がいて、仲間がいて、恋人がいた。
仕事があった。生きがいがあった。
日々の小さな幸せを喜んだ。手をとり合って生きてきた、私と同じ、人間だった。
それなのに。
壊されて、奪われた。
生きた時代が違う。ただ、それだけで。
無辜の命を。あたり前に生きていた、あの日々を。
摩文仁の丘。眼下に広がる穏やかな海。
悲しくて、忘れることのできない、この島の全て。
私は手を強く握り、誓う。
奪われた命に想いを馳せて、心から、誓う。
私が生きている限り、こんなにもたくさんの命を犠牲にした戦争を、絶対に許さないことを。
もう二度と過去を未来にしないこと。
全ての人間が、国境を越え、人種を越え、宗教を越え、あらゆる利害を越えて、平和である世界を目指すこと。
生きる事、命を大切にできることを、誰からも侵されない世界を創ること。
平和を創造する努力を、厭わないことを。
あなたも、感じるだろう。
この島の美しさを。
あなたも、知っているだろう。
この島の悲しみを。
そして、あなたも、私と同じこの瞬間（とき）を一緒に生きているのだ。
今を一緒に、生きているのだ。
だから、きっとわかるはずなんだ。
戦争の無意味さを。本当の平和を。
頭じゃなくて、その心で。
戦力という愚かな力を持つことで、得られる平和など、本当は無いことを。
平和とは、あたり前に生きること。
その命を精一杯輝かせて生きることだということを。
私は、今を生きている。
みんなと一緒に。
そして、これからも生きていく。
一日一日を大切に。
平和を想って。平和を祈って。
なぜなら、未来は、この瞬間の延長線上にあるからだ。
つまり、未来は、今なんだ。
大好きな、私の島。
誇り高き、みんなの島。
そして、この島に生きる、すべての命。
私と共に今を生きる、私の友。私の家族。
これからも、共に生きてゆこう。
この青に囲まれた美しい故郷から。
真の平和を発進しよう。
一人一人が立ち上がって、みんなで未来を歩んでいこう。
摩文仁の丘の風に吹かれ、私の命が鳴っている。
過去と現在、未来の共鳴。
鎮魂歌よ届け。悲しみの過去に。
命よ響け。生きゆく未来に。
私は今を、生きていく。

※魑魅魍魎（ちみもうりょう）人に害を与える化け物の総称。また、私欲のために悪だくみをする者のたとえ。
※阿鼻叫喚（あびきょうかん）非常に悲惨でむごたらしいさま。
※無辜（むこ）罪のないこと。
※鎮魂歌（ちんこんか）鎮魂祭にうたう歌。転じて、死者の霊をなぐさめるために作られた詩歌。

戦争では、人々はさまざまな権利が制約され、基本的な人権の一つである「生存する権利」さえも脅かされます。この意味で、「戦争は最大の人権侵害」であると言われます。これからを生きる私たちは、再び戦争の惨禍は繰り返さないと強く心に刻み、行動していかなければなりません。